

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>・地域に根づいたサービスは、開所時より目指している。地域密着サービスの意義について確認し、今まで以上に地域の中での生活の継続支援を考えている。</p>	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>・ミーティングや申し送り、関わりの振り返りの時などに、理念に触れそれに基づいたケアの実施について話し合い、方向性を一つにしている。</p>	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	<p>・家族には入居時の説明や家族会、訪問時などに、生活の様子などを通してわかりやすく伝えている。</p> <p>・地域住民には、自治会総会やお便りで知らせたり、運営推進会議や行事への参加などから生活の様子を見てもらい理解を深めてもらっている。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>・日頃のあいさつや立ち話などを大切にして関係作りに努めている。野菜やお花をもらったり、散歩の見守りをしてもらったりと、自然に近所つきあいが深まってきている。顔見知りの方は気軽に立ち寄ってもらえる。</p>	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>・自治会の総会、盆踊り、運動会、老人会の奉仕作業など、利用者とともに参加している。</p> <p>・ボランティアにいられた方が、外で見かけて声をかけて下さったり、小学校の「こども110番の家」や中学校の「職場体験」など地域との交流に努めている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	・管理者は事業所での実践経験をふまえて認知症ケアの啓発に熱意をもっている。高齢者の生活、認知症についての講演や、認知症サポーター養成研修、ヘルパー2級の養成などの講師も努めている。人材育成への貢献として研修生や見学の受け入れも積極的に行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・サービス評価の意義や目的を資料、口頭、ガイドブックで伝え、職員全員で自己評価に取り組んでいる。 ・1年に1回の見直しの機会として、自己評価の時点から改善への取り組みを初めている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・運営推進会議は年間計画にそって、サービスの実際や評価への取り組み、評価の結果などを報告して意見をもらい、サービス向上に活かしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	・介護保険課や健康福祉課、包括支援センターに気軽に出入りできる関係も、できている。実情やケアサービスの取り組みを折に触れ伝えている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	・事例や研修、学習会を通して理解を深めている。見やすいリーフレットを役場からもらい学習に使っている。必要な人には活用を支援していきたい。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・虐待防止の研修を積極的に受け、報告により他の職員に周知している。 ・言葉、態度での虐待についても話し合う機会を持ち、虐待防止を徹底している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・重要事項説明書、契約書、料金表は時間をかけ、心配なことやわかりにくいことなどを確認しながら説明している。個人情報取り扱い、病院受診、見取りの指針については別に説明、同意をもらっている。また、いつでも気軽に相談できるように声をかけている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・利用者から、何でも言える雰囲気作りに努めている。また、こちらから、意見や不満、苦情などを聞く機会を作っている。 ・生活の中での利用者の声にはすぐに対応するように努めている。必要な時はチームでミーティングを行い共有するようにしている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	・毎月のお便りに担当職員が、最近の様子などを書き添えて知らせしている。行事の写真や、ナイスショットもお便りと一緒に送っている。 ・金銭管理についても毎月、出納簿と領収書(共に原本)を送り報告している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・家族から、何でも言える雰囲気作りに努めている。また、家族会や訪問時、電話などでこちらから意見や不満、苦情などを聞く機会を作っている。 ・苦情の受付窓口を表示、案内して知らせている。	○	・家族会で職員が席をはずし、家族同士で話し合ってもらう機会を作る。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・日頃からコミュニケーションを図るように心がけ、意見や提案を聞くようにしている。 ・いつでも、どんなことでも職員からの意見を大切にしている。 ・必要であれば、すぐに改善している。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	・利用者の生活の様子に合わせ、必要な時間に必要人員を確保し、適切なサービスが提供できるように調整している。 ・管理者は、状況に応じた対応ができるよう通常シフトに入っていないため、夜間の対応や利用者の状態の変化に対応できる柔軟な体制が取れている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	・馴染みの関係を大切にしている。適性や利用者との相性も考慮してチームを作っている。 ・新人職員は利用者で紹介している。利用者情報の提供や職員教育を計画的に行っている。 ・新人職員の変則、夜勤勤務は、仕事の習得状況により開始している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・職員の能力、経験年数、スキルに応じ研修へは積極的に参加している。研修報告、報告書の閲覧により情報を共有している。 ・働きながらのヘルパー養成講座の受講なども勧めている。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・しまね小規模連絡会に加入し交流の機会をもっている。 ・関係事業所との、情報交換や交流をもっている。以前は、他の事業所の見学実習を積極的にしていた。	○	・人員確保され落ち着いたら、他事業所の見学実習や交流会を計画的に実施する。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	・職員の疲労やストレスの要因について気を配り、声をかけて話を聞くようにしている。 ・休憩室の確保、不定期飲み会などを実施して気分転換や職員交流ができるようにしている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	・現場にいる管理者が、職員の個々の性格や得意分野などを把握し良かったことは褒めたり、疲れているときにはねぎらいの言葉をかけたりして、人間関係を深めながら向上心へとつなげている。 ・運営者は現場の声を大切にしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	・事前に本人と面接して、不安や困っていることを直接聞く機会をもっている。言葉での表現は難しくても、表情、しぐさなどから心情を組み取るように努め、不安の除去に努めている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	・家族の困っていること、状況の把握に努め、信頼関係を作るようにしている。面接時のみでなく、不安なことなどあればいつでも相談できることを伝えている。入居前には、安心して入居できるよう心配事や体調などを伺う電話を入れている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・家族や本人と面会し、困っていることや不安な事を聞き、適したサービスの提案、紹介をしている。他の事業所やサービス、ケアマネを紹介することもある。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・本人、家族に「一度遊びに来てください」と、来所をすすめ雰囲気や生活の様子などを感じてもらっている。入居前に短時間でも(何度でも)遊びに来てもらい、環境に馴染んでもらえるように支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	・職員も家族の一員として接し、人生の先輩としてたくさんの事を学んでいる。喜びも悲しみも共にわかちあい、本人が楽しく生活できるような関係作りをしている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	・家族との関係作り、情報の共有に努め、大切な「お母さん」「お父さん」と一緒に支援する気持ちで関わっている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	・家族との外出、外泊、待ち合わせて食事などをこちらから提案している。 ・会話がうまくできなくても、体調がよい時に家族に電話をする機会をつくり、家族との絆を大切にしている。 ・認知症の理解、喜びの共有などより良い関係作りのために、情報交換や声かけをしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・顔見知りの方との関係が途切れないように、出身地のイベントなどに出かけたりしている。 ・馴染みの方の訪問は、みんなで喜び過ごしやすい場所を準備して、おもてなしをしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	・利用者同士の関係に配慮しながら、ホールやお部屋でのお話、お茶、ゲーム、歌、役割活動などに誘っている。楽しく過ごせる関わりと共に関係が深まるように支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者と一緒に面会に行ったり、担当者から様子を聞いたりしている。 ・サービス利用が終了してからも、家族との付き合いが続くこともある。 		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の関わりの中での思いや、希望など、把握するように努めている。言葉や表情、しぐさなどから思いをくみ取り、そっと確認するようにしている。 ・明確に把握できない場合は「本人はどうか」と、チームでカンファレンスをして思いの把握に努めている。 		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・入居時に生活歴や馴染みの暮らし方などの聞き取りをしている。入居後も情報シート、アンケートの記入、訪問時などに、必要な情報を収集している。 		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・目先の現象にとらわれず、全体像を見るように心がけている。 ・出来る事、楽しまれた事などの発見を記録に残し、朝の申し送りやチームのミーティングで、共有している。 		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	<ul style="list-style-type: none"> ・本人、家族には日頃の関わりの中で思いや意見を聞き反映するようにしている。担当を中心に、日常的にチームでのミーティング、月1回のケースカンファレンスを行っている。 		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	<ul style="list-style-type: none"> ・介護計画の期間に応じた見直しを行っている。それまでに状態の変化があれば、新たな計画を作成している。 ・計画作成時には、本人、家族の思いを大切に、また担当医の意見を聞き作成している。 		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・利用者の日々の状態がわかるように記録している。食事、水分、排泄などの身体状況および、1日の流れ、生活の様子などを記録している。介護計画に沿った個別の観察記録もしている。いつでも、すべての職員が見られるようにしており、勤務開始前の確認は義務付けている。が、記録の内容がまだ十分ではない。	○	・今後ともグループホームの記録について追求し、記録用紙、内容を充実していきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	・本人、家族の状況により、イベントへの参加、ドライブ、外食、病院受診など、必要な支援や楽しみの提供に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	・社会福祉協議会、福祉事務所、ボランティア、警察、消防などの協力、図書館の利用など、地域資源を活用しながら、利用者の生活を支援している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	・地域のほかのケアマネジャーやサービス事業所と、連絡、相談をしながら適切なサービスを利用できるよう支援している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	・運営推進会議に地域包括支援センターの職員が参加することにより、情報の交換や連携をとりやすくなった。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・本人、家族の希望により出身地の診療所に通院することもある。かかりつけ医を希望される場合は医療が継続されるように情報提供をしてもらっている。 ・病院受診は家族対応としているが、希望があれば代行している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	・協力医療機関の担当医に診断情報や治療方針、認知症についての指示や助言をもらっている。 ・困難事例は精神科医へ受診、相談している。緊急時の対応も可能である。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	・看護職員を配置しており、日常の健康管理や状態が変化した時の対応がスムーズにできている。24時間対応で夜間緊急時なども連絡、相談が気軽にできる。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	・入院までに、適切な医療が効果的に受けられるよう事前情報を提供する機会をもつようしている。 ・入院中の経過や治療についても医療機関や家族と情報交換をしながら早期退院に向けての支援をしている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	・本人、家族、かかりつけ医と話し合いながら方針を決めて共有している。経過中も本人に最良と思われる方法を話し合い、方針の変更も考慮している。話し合いは「できるだけ早い段階」ではなく、「必要と思われる時期」に初めている。	○	・利用者、家族の意向を大切にしていきたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	・かかりつけ医と今後の方針について、機会ごとに話し合っている。利用者、家族の希望、安楽、事業所の受入れ体制、医療機関との連携などを考慮しながら、支援していく方針を明らかにしている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	・移り住むことになった場合、その方の生活の様子や支援の内容、好み、趣味などこれまでの生活が継続されるように、十分な情報提供をしている。その後も必要な情報を電話などで交換しダメージの防止に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりの誇りやプライバシーを傷つけないような言葉かけや対応について全体会議などで話し合っている。 気になる言動には個人的に話し合う機会を持ち徹底している。 	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> 利用者と過ごす時間を通し、本人が決める力や希望、関心、好みなどを見極め、楽しい生活ができるよう支援している。 思いを表出しやすい関係づくりや言葉、態度に努めている。 個別の選択方法を提供し、表情やしぐさでのサインも見逃さず受け止めている。 	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<ul style="list-style-type: none"> 利用者一人ひとりの状態、思い、ペースに合わせた生活を支援している。 外出、買い物、献立など、利用者の希望を聞いたり、選んでもらったりしながらゆったりした生活を楽しんでいる。 	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	<ul style="list-style-type: none"> お部屋に鏡付き洗面台を設置している。個別の化粧ケースや鏡は、テーブルや台を準備して使いやすいようにしている。 理、美容院は、お好み、相性、馴染みの関係があるところに出かけている。 	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> 食事に関する一連の流れを利用者と一緒に行っている。一人ひとりが出来ること、得意な事など色々な形で参加している。 食事は職員と一緒に楽しく食べている。 片付けは利用者がされた後、職員が仕上げをしている。 	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> 医師のストップがない方、ご自分で管理される方は、自由にお部屋で間食や晩酌を楽しまれている。 	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	・排泄の失敗、おむつの使用は以前より増えてきている。個別の排尿パターンを十分把握していない。	○	・排泄の失敗、おむつの使用を減らすため、個別の排尿パターンをつかみ、適切な言葉がけによるトイレ誘導をしていく。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	・入浴は毎日いつでもできる。本人の希望を確認し、お好みの時間に入ってもらっている。 ・入浴したい時にお湯を溜めて入られる方、見計らって自分から入られる方などおられる。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	・一人ひとりの生活習慣を大切に、消灯は決めずにテレビを見たりお茶を飲んだりゆっくりしてもらっている。 ・夜間十分な睡眠が取れるよう、日中の活動、体調、入浴時間、入眠までの関わりなど個別に支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・一人ひとりの力が発揮できるよう、得意なこと、手馴れたことなどの役割を一緒にしている。出来ることの喜びとねぎらい、感謝の言葉はおしまずに伝えている。 ・関心や興味のある楽しみ事や催しに出かけて、気晴らしをしている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・家族と相談して、本人管理の方、買い物の時に財布を持って出かけられる方、事業所で預かりの方がおられ、個別に支援している。 ・買い物をされた時は、自分で支払われるように支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・日常的に散歩、買い物、ドライブに出かけている。話の流れで気ままに出かけることもある。 ・畑仕事や草取りの後に、ベンチに腰掛けて外気浴やおしゃべりを楽しんでいる。 ・歩行困難な方のお出かけの機会が少なくなっている。	○	・歩行困難な方のお出かけの機会を増やす。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	・利用者の希望や思いをくみ取り、外出や外泊の機会を作るように働きかけている。 ・家族で温泉旅館に泊まれたり、職員と一緒に遠方の故郷に出かけている。一泊旅行も楽しんでいる。	○	・家族との外出、食事、墓参りや、盆、正月の帰宅などの機会を増やして行きたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> いつでも電話などできる雰囲気づくりをしている。こちらから、家族への電話や手紙をお勧めすることもある。 手紙やハガキのやりとりも希望があれば自由にしてもらっている。 年賀状や暑中見舞いなど絵手紙を作って出したりしている。 		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	<ul style="list-style-type: none"> 面会などにはいつでも来てもらえるように、時間など決めていない。 面会時には、気楽に過ごせる場所を提供し、お茶やお菓子の接待、プライバシーに配慮しながら必要な情報提供をしている。 見送りに「また来てください」と、言葉と心を添えている。 		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> 研修会などに積極的に参加して学習の機会を持ち、身体拘束をしないケアを実践している。 何気ない一言や態度が、拘束になっていないか、話し合う機会を持っている。 		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> 日中は鍵をかけずに、自由に出かけてもらっている。 早朝の散歩や利用者2～3人で散歩をされることもある。 地域の方の見守りも自然に出来てきている。 		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	<ul style="list-style-type: none"> 利用者がホールで過ごされる時間には、職員1名と一緒に過ごすようにしている。 昼夜とも、巡視時間を設け人員確認と所在の確認をしている。 夜間も必ず職員1名は起きていて利用者の安全に配慮している。 		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	<ul style="list-style-type: none"> 安全に管理できる利用者は裁縫道具(針、はさみ)手鋏など自己管理している。 包丁は本数の確認をして、夜間は鍵付き引き出しに保管している。 洗剤、シャンプー、石鹸は使用後に片付けている。 	○	・管理が過剰になっていないか見直しをする。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> 転倒などがあつたときにはすぐにチームで話し合い、対策を立てている。 一人ひとりの状態から考えられるリスクを予測し、事故防止に努めると共に、発生時の対処について共有している。 ひやりはつとの取り組みがなかなかうまくいかない。 	○	・職員全員が、ひやりはつとの目的を理解して積極的に書けるようにする。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・消防署の協力を得て、救急蘇生法の研修を実施し、全職員が対応できるようにしている。 ・看護師による応急手当の勉強会をしている。 ・個別に起こりうる状態について、チームで共有し対応できる。 		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> ・年2回消防署立会いの避難訓練を実施している。他に、防火管理者を中心に年間計画にそっての訓練を行っている。 ・地域住民、消防署、警察、地元消防団への協力の呼びかけは開所時より行い協力してもらっている。 	○	・災害に備えた備品等の準備を検討する。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	<ul style="list-style-type: none"> ・役割活動や一人外出などはリスクが高いが、本人の満足感や達成感が大きく、生き生きとした笑顔が見られることを家族に伝えている。それにより起こりうるリスクについて説明して、家族と地域の理解と協力を得ている。 		
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	<ul style="list-style-type: none"> ・日常的に、利用者の顔色、表情、食事、排泄などいつもの様子を把握して、異常の早期発見に努めている。 ・変化を認めた場合は、状態とバイタルをチェックしてチームで情報を共有して経過観察を行っている。 		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・薬剤情報提供書をいつでも見れるようにしている。また、チェックしやすいように一覧表を作っている。 ・服薬までに3回チェックするようにして誤薬を防いでいる。 ・服薬については、個別に支援している。 ・薬局とも日常的に情報交換をしている。 		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりに応じた自然排便を促すよう、食材の工夫や運動などの働きかけをしている。 ・個別に野菜ジュースやヨーグルト、センナ茶などを準備している。 ・水分をおいしくたくさん取れるように、ゼリーにするなどの工夫をしている。 		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・肺炎の予防、口腔ケアの必要性を理解し、食後の歯磨きの声かけを行い個別に支援している。 ・利用者の気持ちに配慮しつつ口腔ケアを行っている。 ・就寝前には義歯のブラッシングをして洗浄剤につけている。 		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・食事や水分の摂取状況を毎日チェック表に記録し状況を共有している。 ・食事を写真に撮り、内容、色取り、盛り付けなどを利用者と一緒に見て検討している。 ・看護職員と担当者が中心になり、適切なカロリー、食事形態にしている。 		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	<ul style="list-style-type: none"> ・マニュアルを作成し対応できるようにしている。が、見直しや勉強会は十分出来ていない。 ・インフルエンザの予防のため手洗いやうがいの呼びかけをしている。利用者、職員共にインフルエンザ予防接種を受けている。 ・ノロウイルス対策として、スーパー次亜水を使用している。 	○	・事業所で起こりうる感染症についてのマニュアルの見直しと勉強会をする。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・まな板、ふきんの漂白を毎日行っている。 ・新鮮で安全な食材を使うため、毎日買い物に出かけている。 ・賞味期限のチェックを行い古い物や、残り物は処分している。 ・衛生的な手洗いが習慣となるように、方法を表示している。 		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・玄関周りにお花、テーブルなどを置き、感じ良く気軽に立ち寄れる雰囲気作りに努めている。 ・階段などに目印になるテープを張り、なれない場所でも安全に使用できるようにしている。 ・いつでも入りやすいように玄関は開放し、スリッパもいつも準備している。 		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・広いスペースを仕切って、過ごしやすい空間作りに努めている。利用者の意見や希望を聞いたり、様子を見たりして環境作りを進めている。 ・ホールは、外から直接見える窓に目隠しシールをしたり、季節感を感じられるように工夫している。 		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・1人で、また2～3人で過せるように、広いスペースを家具やソファで仕切ったり、廊下にテーブルと椅子を置いたりしている。 ・玄関先や物干し場、外にも椅子やテーブルを置き、好まれる場所で過ごされるようにしている。 		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・入居時に、馴染みの家具などの持込みを家族にお願いしている。入居後も必要な物は持って来てもらっている。 ・本人が居心地の良いと感じられるお部屋を作るために、利用者と相談してベッドや家具の位置などを変えたりしている。 ・居室で過ごすことが多い利用者には明るい部屋を提供している。 		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・空気の入れ換えや温度調節について職員は意識しているが、十分な管理が出来ていない。 ・空調は、室内の温度計と利用者の様子を目安に調整している。空調の吹き出しから直接風が利用者にあたらないようまた、足元の冷えなどに注意している。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・空気の入れ換えや温度調節について常に意識し、職員が管理できるようにする。 ・24時間換気システムはあるが、窓を開放して換気をするように習慣つける。 ・換気扇のファン、空調のフィルター掃除を定期的にする。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<ul style="list-style-type: none"> ・ソファーや家具の位置など手すり代わりにするようにしている。 ・廊下、トイレに手すりをつけている。 ・必要な利用者には、介助バーなどを設置している。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりが安全に自立した生活ができる環境作りを目指し、個別に見直しをする。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	<ul style="list-style-type: none"> ・ホールの椅子を形や色をバラバラにして自分の物がわかるようにしている。 ・一人ひとりがわかりやすい表札をつけ、自分の部屋がわかるようにしている。 		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	<ul style="list-style-type: none"> ・畑があり、野菜や花を利用者と一緒に育てている。 ・ベランダでお茶をしたり、洗濯物を干したりできるようになっている。 ・外にはあちらこちらにベンチを置き、散歩の途中で一休みしながら、話しやお茶、日光浴を楽しむことができる。 		

V. サービスの成果に関する項目	
項目	最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
88 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者の
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいの
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいの
	<input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
89 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> ①毎日ある
	<input type="radio"/> ②数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> ③たまにある
	<input type="radio"/> ④ほとんどない
90 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
91 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
92 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
93 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
94 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
95 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族と
	<input type="radio"/> ②家族の2/3くらいと
	<input type="radio"/> ③家族の1/3くらいと
	<input type="radio"/> ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
		<input type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

何があってもへこたれない私たちの原動力は利用者さまの喜び、笑顔、そしてそれを共有できるご家族の皆さまです。忘れていけないのは、グループホームふくろうの森を、理解して受け入れて下さっている地域の皆さまです。

私たちは、居心地良い環境作りと共に、認知症高齢者グループホームの職員として、知識・技術の向上を目指し自分磨きを続けて行きます。

そんな、スタッフで利用者さまとの生活を楽しんでいます。

天気を見ながら、気ままにドライブをしたり、パンフレットを並べて「ここへ行こう」と出かけたり、「うどんが食べたい」と話があれば一緒にうどんを買いに行ったりと、何でもありの生活です。

利用者さまお一人ひとりが、生きがいや喜びを感じられ笑顔で過されるように支援しています。

単独の事業所ですが、管理者、介護主任が看護職であり、地域の病院とも連携が取れ医療面でも安心してご利用して頂いています。